

青森縣兒童文集

青森縣土木課では舊臘「道路愛護河川愛護兒童文集」を編輯しました、中々
名文そろひです、其の中から道路愛護に關するもの二、三を抜萃して見ませう。

道路愛護

青森市浦町國民學校

初五 柿崎 由聽

學校では

「夏季修練期間中は特に道路愛護に力を入れるやうに」
と先生からお話があつたので、僕はこの期間中つとめて道路を
愛護しようと考へた。道路にゴミを捨てたり、たんをはいたり、
又はらく書をしたりしては、公德心にかけるばかりでなく不衛生
でいけない。僕達としては、まづ道路をきれいにするには、こん
な事をしないばかりでなく、歩行する時きちんと左側を通り他人
のじやまにならぬこと、進んで道路の汚い物を拾ひ、自分の近所
の道路にちり一つ残さぬ様さうじする事である。

僕の住んでゐる浅虫は道路を愛する人が少ないせいか馬ふんが

あちらこちらに散らばつてをり、たんは到る處にはかれてあり、
下水がつまつて流しの水からぶん／＼かがわいてゐる。そこで僕
は夏季修練期間中の仕事として毎日朝七時から八時頃まで僕の家
の前から停車場迄約六百米の間の馬ふんを拾ひ始めた。拾つた馬
ふんは、百姓屋の横内さんの處に持つていつた。たいてい毎朝大
きなちり取に八杯ばかりあつた。一日二日とやつてゐるうちに、
旅館の人達が出て、馬ふんを拾つた後へ水をまいてくれる様にな
つた。しかし僕は最も困つた事はせつかく馬ふんを拾つた後にな
んをばく人がある事である。もしその人が傳染病患者であつたら
大變である。これは僕達ばかりでなく國民全部が注意しなければ
ならぬことだ。それから道路の眞中にわざ／＼ゴミを捨てる人が
ある。ゴミはちやんとゴミ箱へ入れ、ばい／＼のである。また道路
の下水を便所と間違つて小便をしてゐる者もあつた。これはかた
くやめてもらはなければならぬことである。父は病氣の爲、僕

は夏季修練期間中、學校へも出られなかつたので馬ふん拾ひだけは毎日續けた。今後でも出来るだけ續けるつもりだ。

八月二十一日浦町校へ来て驚いた。我が浦町校のまはりはどこを見ても掃除が行き届いてちり一つ落ちて居ないばかりでなく、道路の下水には清い水がさら／＼と流れてゐてほんとうに氣持がよかつた、しかしこれですつかり満足だとはいへない點は二つ三つある。それは、道路に空箱を積んだり、糞や、繩を積んだり其の他いろいろな物を置くことである。これでは一たん何か起つた時充分道路を使ふことが出来ないと思ふ。又街路樹の手入は出来てゐない所が多い、街路樹へさうきんをほしたり竿を立てたり、ひどいものになるとリヤカーなど立て掛けてあつたりする。道を通る時、目を樂ましめるものは何といつても緑濃い街路樹である。それなのに、こんな風ではいけないと思ふ。この暑い最中に道路工夫が汗を流してこはれた所へアスファルトを塗つたり、コンクリートをつめたりまるで自分の子供でも可愛がるやうにしてゐるのを見て僕はきまりが悪かつた。僕はほとつと道路を愛護しなければならぬと深く深く感じた。今大人の人達は國をあげて産業に力をつくして居る時だ。僕達少國民で出来る仕事はこの道路愛護である。皆が協力一致で道路掃除に、下水掃除に力を盡しませう。

道路愛護について

八戸市柏崎國民學校

初六 山田美知子

私は、たくさんの姉妹をもつ道路です。

大は、幅二十米道路から、小はわづか三米位の道もあります。同じ姉妹でも、美しく化粧した道路もあれば、みにくい凸凹の小さい道もあります。私は、其の姉妹の中でもお恥しいながら、あんまりきれいでない。田舎道路です。

今日も朝露を踏みしめながら、お百姓さんが今年の稲作の話をしながら、畠の方へと通つて行きました。お百姓さんの通るのは何時も朝早く、夜はおそくて全く感心です。

そろ／＼日中になると、人通りも多くなり、其の中には大變お行儀の悪い人が大分あります。これでも人間かと思ふ様な人があります。はなをかんだ紙を所きはらず捨てたり、立小便をしたりします。そんな人があるかと思ふと、たんをはき捨て、平氣で行く人もあります。こんなにたくさんのばいきんを私へ平氣で捨て、行く人達をうらめしい氣持でにらんでゐます。つばやたんの中にバイキンがどれ程あるか、人間は知らないのかと、はら／＼して見てゐる事もあります。これ等のバイキンが色々な病氣の元を作つてゐます。人間達は、自分達の不用意に捨てた、たんやつば

が原因で病氣をしてから、あわてゝやれ薬だの醫者だのと走つて行くのをちよい／＼見受けます。又中には私がよ／＼されてゐればちやんと掃いて下さる感心な方もあります。

又、草むしりをして、私をかはいがつて下さる方もあります。

こんなのを見ますと、私も大變さつぱりして良い心持になります。が、通りがかりの人もどんなにきれいな心になる事せう。又、中には眞中に大きな石があるのにどけても下さらずにびよんとはねてゐらつしやる方があります。後から小さなかはいらしい子供たちがかけて来たかと思ふと、其の石につまづいて傷ついたり、下駄を切らしたりして困つてゐるのを時々見うけます。お氣の毒で助けて上げたいと思ふ事も度々あります。

かねて自分の家の前の道さへ掃きもしない、草取もしない人に限り、雨が降つてぬかるみになると、悪い道だ、やれきたない凸凹の道だと不平ばかり言ふ人がありますが、今少し考へてもらひたい事です。皆さんのかねての一寸した注意で、どんなに美しい氣持の良い道になりますかわかりません。

私共の兄弟には、鋪裝した近代的な立派な道もあります。これ等の道路を大きなトラックや馬車がまるで氷の上を走るやうに、何んの振動もなく走る愉快さは、思つた丈でも嬉しい事ではありませんか。かうした立派な道を走る時間のけいさいと氣持の良さを思ふと、鋪裝しなくともせめて皆様の力でなだらかな良い道に

なりたいたいものです。ラジオの話では、戦時下のドイツでは、どんな小さい田舎町でも、たん／＼とした鋪裝道路が續いてゐると云ふ事です。偉いことではありませんか。皆様も道徳をわきまへ、公德を重んずるよい日本人になつて下さい。さうしたら、我が國は交通も發達し、したがつて商業、工業、貿易等もますます盛になりませう。

すると諸外國の人々からも日本と云ふ國は本當に立派な氣持のよい國だと云はれるやうになるでせう。(終り)

道 普 請

西郡修ヶ澤國民學校

特修科 森 山 義 光

目がさめたら時計は三時と少し過ぎてゐた。今日(八月十三日)は鳴澤の道路普請で一軒一人の割で作業することになつてゐた。僕の家では僕が代表して仕事に出ることになつてゐる。午前四時集合にはまだ大分あつた。朝御飯をすませ、作業服にするはしを肩にして朝霧の中を突き進んでゆく僕の姿は正に曉の戰士を思はせるやうな何とも言へない嚴肅な誇りを感じるのである。

「一生懸命やるんだぞ」と強く激勵された父の聲は更に新しく蘇つて來た。……作業場は近くなる。もう村の早い連中は集つてゐる。紫色の煙草の煙は朝霧の中に吸ひ込まれてゆく。村の人達の

そばに僕も腰を下した。ほんのり白んできた遠くの道を、二人、三人連れだつて来る村人が見える。「一生懸命やるんだぞ……父の言葉が又思ひ出された。むつくり立ち上つて無意識の中に僕は坂道を下りて行つた。そこには道端に大きな石がずつと前からあつた。ことを記憶してゐる。村の人達は氣がつかかなかつたか、そのまゝ大きな石がころがつてゐた。上の崖からころんで来たものか三分の一程土に埋まつて容易に動かうとしない。石の周圍を掘つてみた。大分大きいやうだ。つるはしを投げ出して力一ぱい押ししてみたが容易に動かない。残念でならなかつた。一息ついてあたりを見廻したら遠くの方から友達達の繁弘君と兼雄君がやつてくる。僕は二人を呼んだら友達達は走つてきた。そこで三人で掘つた、精魂を打ち込む三人の力は偉大なものとなつた。土に埋つた百貫近くもありさうな大きな石は、どうやら荷車の安全に通れる道端まで運ぶことが出来た。道端の草叢に石を押しこんで、三人は大きく溜息をついたものだから一度にどつと笑ひ出してしまつた。大きくあいた穴に土をもつて、その上を三人で踏みつけてゐたら遠くの方で集合の號令がした。

道路愛護團長の腕章をつけた末作さんが一同の前に立つて、何かお話をしてみた。今日の作業を鳴澤隣へ通ずる二軒の縣道を修理するのである。間もなく班別に分けて各班に作業區域が與へられた。僕と繁弘君は第一班に編入され、班長は神才太郎さんと決

つた。愈々班毎に別れて作業が開始された。

道路上の穴や車のわだちちに土を埋める者、土や石を運ぶ者、石を取除ける者、道路の兩側の堰を掘る者、皆一生懸命だ。僕と繁弘君はモツコで土を運搬した。運搬する距離は近かつたが十回をすぎる頃から肩がぢり／＼痛んできた。肩にした棒は回数を重ねるに従つてぐつと肉にくひ込むやうな氣がした。二人とも背丈は同じだからそれでも案外樂にすごした。土運びを一通りすんでから道端の堰を掘る作業に手傳つた。つるはしをぐつと振り下すとざぶんと泥が顔にはね返した。口や目に入つたりする。繁弘君は僕と反対側の堰に入つたが、時々とがを振る勇しい姿が目に見える。大分熱くなつた、汗で背中がびつしよりなつた。作業開始してから三時間以上も経つたと思はれた。太陽は東天に大分高く昇つた。

「二十分休憩」團長さんの聲につれて班長の神さんも近くで大きく叫んだ。僕は道端の草叢に仰向けに癡ころびながら大空を眺めた。繁弘君もそばへやつてきて腰を下したが、二人は黙つてゐた。「疲れた」と思つた。「一生懸命やるんだ」と勵まされた父の言葉に、「なあに、大人にだつて負けるものか」と固く心に誓つてきた僕は、もう負けてしまつたらしい。

「作業開始」二十分の時間は非時に早かつた。第二回目の作業に對して、自分の考へはまだはつきり定らない中に、僕はもうつる

はしを手にしなればならなかつた。日照を受けて蟬はザー／＼

鳴き出してゐる。上半身裸になつて、つるはしを握つたまゝ作業

場についた時、僕は、僕の將來を約束した青少年義勇軍の勇まし

い僕の姿が思ひ出された。さうだ。僕は義勇軍を志願してゐるの

だ満洲開拓の大使命に生きようとする僕は、道路普請やこれ位の

作業にへこたれやうとしてゐる。繁弘君や兼雄君とは違ふのだ。

情ない。これ位のことでは僕の心を強く鞭うつた。藪のやう

に、深くなつた堰の穴に僕は飛び込んで行つた。堰にはもう水が

溜つてゐた、蛙は驚いてわきへとんでいつた。時々頭を上げると

遠く停車場へ通ずる道は處々きれいな赤土がもられてとても美し

かつた。道路修理の工夫さんが「御苦労様です〜」と繰り返し

ながら通つて行つた。午前十一時半停車場へ通ずる二軒の道路は

しつかり出来上つた。皆んな腰を伸して、綺麗に整頓された道路

に起つて左右を見渡した。

「道路日本國土の血管に等しきものだ」と地理の時間だつたか先

生に教はつた。道路は健全である限り日本の國土は安泰である。

僕等の普請したこの道路を、見よ。軍隊が歩武堂々とする。トラ

ックが走る、鍬を肩にした農夫が通る。國民の大進軍が展開され

たのである。

道路 愛護

八戸市長者國民學校

初五 泉 山 禎 子

窓越しに外が明るく見えた、はつと枕下の置時計に手をやつた。

さうだ。今日は子供隣組の道路清掃の日だつた。もう四時を過ぎ

てゐる。お友達が全部集つて働いてゐるのではないかと、あはて

ゝ眠い目をこすり／＼洋服を着た。片手は釦をかけ片手で玄關の

かぎを外してゐると、ちくりとさゝれたので、「あついたいと思は

ず大きな聲を立てゝびしやりと足をたゝいた。蚊にやられてしま

つた。ごしく／＼かきながら箒を持つて外へ出た。まだ誰も見えな

い。昨日はねぼうしてお友達に越されたが今朝は一番早いのでと

ても氣持がいい。港の方の空は赤味を帯びてとてもきれいだ。今

迄ぼやついてゐた頭がすつきりして來た。足で軽く拍子をとりに

がら思ひついた歌を口の中で歌つてゐた。「お早よう」と聲がした

のでふりかへつたら、二、三人のお友達が見えた。私も、お早よ

うと挨拶した。人達はぼつり／＼とあるだけ、たまに野菜をつん

だ荷車が通る。どこかの工場へ働かに行く人達であらうか、お辨

當をさげて自轉車をとばして行つた。皆な集つたので私達はきめ

られた場所について一せいに働きはじめた。紙くづやわらくづか

ら、ガラスの破片果物の皮など色々散らばつてゐる。毎朝掃除

してゐるのによくこんなにごみも出るものだと思ひ、かじめてゐ

た腰をのぼしてあたりを眺めた。灰色の地面を掃きながら或は話

合ひ、或は歌ひすがくしい朝の空氣を吸ひながらみんな思／＼の姿勢で箒を動かしてゐる。昨日は天氣がよいせいか人達が多かつた爲か案外道路がよ／＼してゐる。家の支關の戸があいたので手を休めて振り返つて見たらお母さんが笑つて見て居られた。そして「よくみんな毎朝仲よく働いて感心だね」とほめて下さつた。そして「たゞ道路の眞中だけでなくよくすみ／＼へ注意するやうに」と言はれたが、なる程さうだと思つた。時間がたつにつれて人通も多くなつて来る。道路の岸をはいてゐると箒の先がちよつと重く感じた。氣をつけて見たら、鐵屑のさびきつたのが地面にびつたりとくつ着いてゐる。私は急いで拾ひ上げた。此の非常時にたつたこれだけの鐵でも大事に／＼しなければならぬ。たとへばある機械を作るのにきまつた分量よりもしこれだけの鐵が不足としたら其の機械は完成しないのだ。なぜ私達は道路を愛護するか、それはもちろん美しさを求める心からであらう。しかしそれだけでは足りない。もしこのままにして置いたら自動車自轉車が故障を起し其の爲に及ぼす無駄が大きい。又敵機にでもおそはれた場合路面が悪く障害物があつたら思ふやうに働く事が出来ず、時間ばかり費して其の爲にどういふ結果にならないとも限らない。又色々のばいきは不潔な場所からわき出る。其の爲たくさんの病人が出来て、人々はどれだけめいわくするか考へると恐ろしい事である。又常に整理された道路を通行する人達が、氣持よくひ

きしまり仕事の能率も上るのではないかと考へられる。

私達が今清掃してゐる此の裏通の一本の道でさへ一日に何百人かの人、發臺かのトラックが走る、まして表通りの道路が愛護されてゐなかつたらどれだけの不便が生ずることであらうか。もし萬一の時には、などに考へ及ぶと私達は常に注意して穴があつたらうづめ、みぞが出来たらならし、ごみがあつたら掃き清め、障害物があつたら取のけてよく道路を愛し永久に保存して行く事に心をくばらなければならぬ。さうして町内の爲、又國家の爲、喜んで／＼毎朝一寸の時間を利用して働いてゐるのである。

僕は道路である

八戸市吹上國民學校

高二 庭鳥鳴 龍三

昔は一人、二人と數へる程しか僕の目はいらなかつたのが、今では何十何百の人が、車が僕の上を行過ぎるやう、目まぐるしい程に往來がはげしくなつた。

この様に世の中が忙しくなり、人の交通が頻繁になつて僕の役目がいよいよ重大になると、僕も次第に武装しなければならなくなつて來た。人々の手によつてコンクリートですつかり武装してもらつた僕は、いくらでも人々の爲に御奉公出来るやうになつた。多くの仲間には、アスファルトや砂利で武装してゐるものも多い。

もし昔のまゝで土だけで裸になつてゐたものなら雨が降つたと言つてはひどくぬかり、風の日にはもうくとはこりが飛び、人々の交通に大變な不便があつたらう。すつかり武裝した今日、人が何百人歩かうとびくともしないやうになつた。それと共に人々も僕を大切にして下さるやうになり、「道路愛護デー」と言ふ日まで設けて、僕達保護して下さつてゐる。

僕達の上に紙屑が散らされ、所かまはず「つば」が吐かれたりして、そのまゝであつたら僕ばかりか世の中が如何にきたないものになるであらう。そしてこれら汚物から、バイキンが空氣中に發散したら人の健康に大きな悪影響があることであらう。文化の發達はこのやうな事に無頓着であられようか。道路を清潔にし道路を愛することは公德の心の厚い人として世の中から、賞讃せらるゝことになるではあるまいか。

近頃は各學校の生徒の人々が、清掃奉仕して僕の體を清掃して下さい。僕はその度に感謝の念に燃える。

僕は働くことが出来ない。それで働く人や馬牛等凡ゆる僕の上を通るものゝ爲に安全を祈つてゐる。

道路愛護

中津輕郡鳥井野國民學校

初六 佐藤 トミ

一 「わが村は道路愛護で模範村」
こんなボスターありました

役場の前にありました
ザイツと前のことでした

二 青年團がみんなして
岩木川原の砂利とつて
毎年々々街道に、
くばつてしいてくれます。

三 道路愛護の週間に、

村の區長さん先に立ち

一軒一人献もつて

みんなで草とり始めます

四 わたくしどもは六年生
國民學校の生徒です

みちがほれたらなほしませう
馬ふんがあつたらはきませう。

五 水がたまれば土ほつて

なくなるやうにながしませう
ガラスのかけやせとかかけを
みつけ次第に除きませう。

六 自動車荷車自轉車が

來てはパンクはいたしません
道ゆく人も安心だ

お國のためにつくしませう。